

1 事業名

平成26年度教育事業「体験活動支援セミナー」

～ドキドキ わくわく ボランティア 夏～

2 趣旨（事業の目的）

自然体験活動を支援する立場として、学校外における体験活動を主体的に運営や補助を行う上で、必要な知識や技能を学ぶ機会とする。また、習得した知識・技能を活かす場として、実際に小学生を対象とした事業を自主的に進められるようにする。

3 期日

平成26年8月30日（土）～31日（日）

4 参加者 18名

（高校生1名，大学生17名）

5 連携・協力 岩手県教育委員会，盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，盛岡大学

6 内容

（1）日程

日時	9:20	9:40	10:00	10:50	11:45	13:00	13:30	13:50	15:00	17:30	18:30	20:00	21:00	21:30	22:30	
30日 (土)		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	ての打合せ 活動内容について	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 「仲間づくり アイスブレイク」	活動2 創作 うちわ作り等	夕食	活動3 「キャンプ ファイヤー」	入浴	就寝指導	T タ イ ム	就寝準備
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:00	13:00	14:00	14:30	15:00	15:15	太枠で囲まれている部分は小学生との活動です。					
31日 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	活動4 「野外炊事を楽しもう！ わくわくランチ」	片づけ	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と 児童理解」						

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

中田 春輝

企画指導専門職

丹 康浩

事業推進係

及川 未希生

事業推進係

長谷川 祐太

・指導補助

法人ボランティア

8名

（3）企画のポイント

法人ボランティアには、テンパークちゃれんじくらの企画・運営に携わりながら、青年参加者に対する支援を行うことができるように設定した。6月から、事前準備のためのミーティングを重ね、企画や事前の準備を行ってきた。また、社会教育実習生

及び一般参加者にはグループリーダーとして、小学生とのふれあいを十分に体験できるように企画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

事業の企画・運営についての事前のミーティングを実施していたことで、参加者一人一人が見通しをもって活動することができた。そのことにより、事業の企画・運営に対する意識を高め、より積極的に取り組みにつなげることができたと思われる。初日の午前には小学生を迎えての活動に備えて、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。また、参加児童の健康調査票を作成し担当する班の児童の健康面や心理面、保護者からの心配事等を把握することで、児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。小学生ができるだけ楽しく過ごせるように積極的に児童と関わるようにし、高校生や大学生自身の学びが深まるように工夫するため、青年参加者を2名ずつ小学生の班にグループリーダーとして配置した。先輩の法人ボランティアが運営スタッフとして参加し、受講者にアドバイスをした。

体験活動支援セミナーの参加者も法人ボランティアも、それぞれ別時刻にふりかえりを行い、子どもの宿泊室から大人が離れることがないように設定した。

7 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、小学生と関わりたいと思う意識の高さが伺えた。グループリーダーとして、子どもたちと深く関わり、子どもたちと真剣に向き合う中で、子どもたちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、多くのことを学ぶことができた。事業の目的どおりの成長が得られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。また、セミナー参加者自身が自分の変容を認識することができた。この結果について、広く県内の施設に普及していきたい。

8 今後の課題

高校生や大学1年生が参加しやすいように、実施の時期を考慮する必要が感じられた。社会教育実習以外の参加が2名と少なかった。申し込みはあったのだが、生徒会行事や実習を理由にキャンセルとなってしまった。夏休みが明けてすぐの時期の開催であったので、参加しやすい時期を模索していきたい。



アイスブレイクの様子



牛乳パック灯籠作り



ゲームの指導の様子